

『通信』編集は事務局・進藤修一が担当しております。

連絡先〒562-8558 大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内

TEL/FAX 0727-30-5355 EMAIL sshindo@jnb.odn.ne.jp

『大学史研究通信』第30号は、5月31日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒562-8558 大阪府箕面市栗生間谷東8-1-1

大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内 大学史研究会

TEL/FAX 0727-30-5355 EMAIL sshindo@jnb.odn.ne.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

阿曾沼 明裕（名古屋大学）
進藤 修一（大阪外国語大学）
福石 賢一（九州女子大学）

大川 一毅（早稲田大学）
橋本 鉦市（東北大学）
吉村 日出東（明治大学）

大学史研究通信

第29号、2002年3月31日（日）

大学史研究会

第29号の内容：訃報 中野実会員 ご逝去・事務局からのお知らせ・大学文書館ニュース・『大学史研究』第18号原稿募集、執筆要領・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

訃報 中野 実 会員 ご逝去

2002年3月30日に本会会員で東京大学教育学部助教授の中野実会員が逝去された。享年52歳であった。中野会員は、立教大学大学院博士課程を満期退学後、東京大学百年史編集室室員、東京大学助手、広島大学大学教育センター客員研究員のほか、豊島区教育史編纂委員会代表代理、東洋大学百年史専門委員、数多くの大学で非常勤講師を歴任された。専門は近代日本教育史・大学史で、研究者として大きな足跡を残した。

通夜・告別式には大学史研究会からも多くの会員が集まった。氏の遺影や、献花の際に流れた小倉稜の歌に故人の人柄が偲ばれ、そのことが、優秀な研究者にして、本会の有力メンバーである氏を、あまりにも早く失ってしまったことへの喪失感を、よりいっそう強く感じさせた。（進藤修一記）

事務局からのお知らせ

事務局の交代・事務局所在地の移動について

2001 年度総会で承認された事務局交代決議にしたがって、4 月 1 日より新事務局が発足しました。旧メンバーのうち留任した阿曾沼、大川、進藤、橋本に加え、福石賢一（九州女子大学）、吉村日出東（明治大学）の両名が新戦力として加わりました。総会で課題になっていた問題のうち、「『大学史研究』の査読体制を拡充させること」については、事務局から独立した編集委員会を立ち上げ、そこに査読委員が所属するという体制をとることとなりました。これまで事務局運営の労をとってこられた坂本辰朗会員が事務局から退いたため、事務局所在地を大阪外国語大学進藤研究室内へと移し、このたびのあらたな出発となったことを、ここで会員諸氏に報告させていただきます。（進藤修一記）

<大学文書館ニュース>

「フンボルト大学アルヒーフの移転」

早島 瑛（関西学院大学）

フンボルト大学アルヒーフ(Universitätsarchiv der Humboldt-Universität zu Berlin)は移転のため閉鎖されていたが、ベルリン北部のライネッケンドルフ地区のアイヒボルンダム 113 番地(13403 Berlin, Eichborndamm 113)において昨年 9 月から再び通常の閲覧業務を開始した。アルヒーフは「S 2 5」のアイヒホルンダム駅から徒歩三分のところにあり、アイヒホルンダム駅まではフリードリヒ・シュトラッセ駅から直通で約 15 分で行けるので比較的便利である。

この大学アルヒーフは 1945 年に創設され、最初、旧大学図書館内におかれていたが、1996 年にシャロテンブルク地区のザルツウファー 14 番地(Salzufer 14)に移転したばかりであった。5 年間に 2 度の移転である。アルヒーフの移転は、移転期間中、文書の閲覧が停止されるため、研究者にとって歓迎されないのが普通である。しかし、アルヒーフの移転は研究者にメリットをもたらすこともある。移転のさい徹底した文書整理が行われるので、それまで「行方不明」であった文書が「発見」されることがあるからである。たとえば 1996 年の移転以降、旧ベルリン商科大学関連文書の閲覧は以前に比して容易になった。

この新しいフンボルト大学アルヒーフは約 750 平方メートルの広さをもち、かなりの余裕がある。スタッフは館長のシュルツェ博士(Dr. Winfried Schultze)以下 6 名である。ドイツの文書館のスタッフは大学アルヒーフにかぎらず一般

(5) 章、節の番号は大きい方から順に、I. II. III. ……、1. 2. 3. ……、(1) (2) (3) ……とします。

(6) 使用する文字種は、全角の漢字かな英数字、半角の英数字、注番号に使う上付き数字などとしします。英数字は、1 文字（1 桁）の場合は全角文字、2 文字（2 桁）以上連続する場合は半角文字を原則としします。外字の使用は控えてください。

なお、MS-DOS 文書形式のファイルの場合は、イタリック、アンダーライン、あみかけなどは、印刷出力に指定を書き入れてください。

(7) 注と文献表は論文の末尾につけます。注番号は上付き数字の 1, 2, 3, ……とします。

邦語文献は、書名、雑誌名を『』、論文名を「」でくくります。

外国語文献の書名、雑誌名は、イタリックを指定してください。

4. 原稿の締切などは、そのつど「大学史研究通信」に掲載します。常例では、執筆希望の申込が毎年 4 月中頃まで、原稿の締切が 5 月末頃となっています。

（今回は上記の通りです）

5. 原稿申し込み・送付、お問合せは、第 18 号については、事務局の進藤まで（連絡先は最終ページ参照）お願いいたします。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第 14 号～現在発行号まで希望者に頒布いたします。80 円×部数＋郵送料（1 部の場合 90 円、2 部以上は 120 円）分の切手を同封の上、編集担当進藤宛までご請求下さい。ご連絡は最終ページをご覧ください。

編集後記

冒頭でお伝えした通り、中野実会員が逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

4 月より事務局の新体制が発足いたしました。今後の運営のことをいろいろと相談していますが、まだまだ難題山積です。たとえば、ここにきて『通信』発行ペースがかなり落ちてしまっています。記事依頼、編集、発行、印刷手配、発送をすべて通信担当者一個人でやるには限界があるように感じました。事務局はあくまでも「従」の立場で、主役は会員のみなさんです。運営への積極的なご参加をお願いいたします。また、運営についてもどしどし意見をお寄せいただければ、それを反映させていきたいと思っています。（進藤記）

に上級職の「学術アルヒヴァール」(Wissenschaftlicher Archivar)と中級職の「ディプロム・アルヒヴァール」(Diplom-Archivar)に分類されるが、現在のフンボルト大学アルヒーフで4名が前者、3名が後者である。文書量は約6000メートル。この夏に学長府文書を中心に新文書約900メートルが搬入されることになっている。

閲覧者は1993年に313名であったが1997年に400名に増加し、1999年は355名であった。このなかから、たとえば、医学と音楽学に関する次の2書が生まれている。

1) Petra Werner, *Der Heiler. Tuberkuloseforscher Friedrich F. Friedmann*. München-Berlin: Verlag Koehler & Amelang 2002. 297 S. (ISBN 3 7338 0319 1)

2) Sebastian Klotz (Hg.), *"Vom Tonenden Wirbel Menschen Tuns". Erich M. von Hornbostel als Gestaltpsychologe, Archivar und Musikwissenschaftler. Studien und Dokumente*.

Berlin: Verlag Schibri 1998. 265 S. (ISBN 3 928878 55 7)

また、大学史研究の中心のひとつに研究業績と人事があるが、そのための不可欠の『目録』として"Berufung und Ernennung des Lehrkörpers 1810-1945" (Teil I: Berlin 1972)があり、特定の大学人に関する研究にとってきわめて貴重なものである。今回のアルヒーフ訪問の目的はベルリン商科大学の歴史研究の継続と、明治期に「お雇い」として来日したリース(Ludwig Riess)に関する研究の継続であったが、他のアルヒーフであれば探索に1日を費やす作業が『目録』のおかげで1分で可能となった。リースに関する文書がどの文書の冊子の何頁にあるかが即時に確認できるのである。わが国の大学文書館においても、単に式典大学史の編纂ばかりではなく、このような『目録』の作製作業がおこなわれることがのぞまれる。

原稿募集

『大学史研究通信』第30号は2002年5月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は『通信』編集担当の進藤までお願いいたします。連絡先は最終ページをご覧ください。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属(昇任・学位取得も含む)に変更のある会員は『通信』編集担当進藤までご一報くださるようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定のかたも、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は最終ページにございます、進藤研究室宛にお願いいたします。

『大学史研究』第18号原稿募集

『大学史研究』第18号の原稿を募集いたします。今回のタイムスケジュールは以下の通りで進めたいと考えておりますので、会員の皆様にご協力いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

執筆申し込み 5月末日まで。論文タイトル（仮タイトルでも結構です）とともに事務局進藤までお申し込み下さい。

原稿締切 8月末日。

投稿執筆要領は以下をご覧ください。

『大学史研究』投稿・執筆要領

1. 「大学史研究」への会員の投稿を歓迎します。
2. 和文原稿は20～30枚（400字詰換算）の分量を標準とし、英文題名と英文著者名を記した別紙を添付するものとします。和文でない原稿も同様の分量（刷り6～9頁）を標準とし、和文題名と和文著者名を記した別紙を添付するものとします。また、読者の便宜のため、充実した和文要旨を添付することをお勧めします。
3. パソコン、ワープロを利用できる方は下記要領で原稿を作成して、フロッピーと印刷出力をお送りください。事務局で一括して印刷しなおして版下を作成します。フロッピーは返却します。手書きの方は、入力作業に多少の時間を要しますので早めにご提出ねがいます。
 - （1）ワード（マイクロソフト）あるいは一太郎（ジャスト・システム）の通常文書で保存したフロッピーを希望します。あるいはMS-DOS文書形式でも結構です。それが難しい場合は、適宜な形式で保存したフロッピーをお送りくだされば事務局で変換をこころみます。
 - （2）用紙はA4を縦に使用して横書き、字詰めは自由ですが、おおむね40字35行とします（刷り上がりがそうなるとは限りません）。
 - （3）第1頁の最初の5行ほどに表題と著者名（カッコ内に所属機関と部局名）を書き、1頁目にかぎり本文は6行目から書きます。
 - （4）図表は別紙とし、本文の挿入個所に図表をレイアウトする空白をあけます。図表はそのまま製版します。